



のいる風景

吉田 かおりさん



【よしだ かおり さん】 小学校教諭

●陶芸「碧の会」会長

小学5年生から生け花、教員になってからは、お茶や着付けを習うなど多彩な趣味を持つ。

※作品展は、9月12、13日に市民ギャラリー2階で開催します。

完成した作品を 目にする瞬間の ドキドキ感がたまりません

土

を練り、ロクロを回しながら思い描く形を作り、1200度を超える窯の中で15時間ほどかけて焼き上げる。そこから生まれる作品に、同じものは一つとしてありません。陶芸に魅了され続けている女性が今回の主人公。「碧の会」で会長を務める吉田さんです。

吉田さんと陶芸の出会いには、今から20年前。「自分で使う食器は、自分で作りたいという思いがあり、その思いを聞いた友人が『かおりちゃん陶芸教室、申し込んでおいたからね』と…。それをきっかけに公民館の陶芸教室へ通うことになりました。最初は、少し面倒だと思っていましたが、今では、土を自分の思う形に変えたり、焼き上がった作品の色を見る瞬間がとても楽しいです」と話します。

一度、素焼きした陶器に、粘土や灰を水で溶かした泥のような液体(釉薬)を表面に付けて本焼きします。「気温

や風の強さに、窯の中の温度が左右され、釉薬の溶け方も変わるので、思い描く色に焼き上げることは本当に難しいです。窯の温度調整がうまくいかず、思い描く色にならないと思っていた作品が、意外にも思い通りになったり、その逆もあります。それでも、自分の生み出した作品全てに愛着があります。また、自分で作ったお皿で料理を食べるときは、何とも言えない幸せな気持ちになります」と陶芸の魅力を余すところなく語る吉田さん。

公民館教室に通っていた当時のメンバー4人で、平成9年に「碧の会」を結成しました。現在は、9人で活動しています。「良い意味で『自分勝手』な人たちの集まりです。みんな作品を作りますが、それぞれの思うままに好きなものを作り、楽しんでます」と笑みを浮かべます。

「碧の会」は、10年前から毎年1回、

テーマを決めて作品展を開催しています。11年目となる今年は、新たな気持ちで作品を作りたいとの思いからテーマを「シンプル」に決めました。会場には、皿やカップ、オブジェなど200点以上を展示するそうです。

「以前、作品展に訪れた父から『小さいものばかりで見栄えがしない』と言われ、高さが80cmほどもある大きなオブジェを作ったこともありま。好きな大きさを自由に作る事ができるのも、陶芸の面白いところだ」と吉田さん。

「曲がっていたり、いびつな形をしていても、それが『味のある作品』です。ロクロを回しているときに、トロトロとした粘土に手を包まれる感触にも癒やされますし、完成した作品を目にする瞬間のドキドキ感は本当にたまりません。多くの方に陶芸をおすすめしたいですね」と笑顔で語ってくれました。